

過去～現在、未来への伝統文化を知ろう

十二所神社の屋台・八龍神社の屋台と芭蕉の句碑



○大子町上岡地区の神社と屋台

上岡地区には十二所神社と八龍神社の2社が鎮座する。両神社には、明治時代の初めに製作された2台の屋台がある。いずれも栃木県・日光東照宮の創建に関わった彫刻師の末裔が彫ったもので、単層2連屋形の屋台で高さは約5mある。

○十二所神社 (左側・上組) 上岡 653 番地

御祭神：天神（あまつかみ）七代神・地神（くにつかみ）五代神。日本神話の中で、天神は高天原にいる又は高天原から天降った神。地神は地に現れた神々の総称。

○八龍神社 (右側・下組) 上岡 1996 番地

御祭神：闇竈神（くらおかみのかみ）。伊弉諾尊が、火の神「軻遇突智神」を斬りし時、生り出でる神。谷に住み水を主宰する神。



芭蕉の句碑は、八龍神社社殿左側の稲荷神社の傍らに建立

○上岡地区とは 元の上沢村と高岡村の二村が、江戸時代・天保13年（西暦1842年）に合併し上岡村に、明治22年（1889年）に周辺四村と合併し大字上岡となった。現在は、茨城県久慈郡大子町上岡地区となっている。十二所神社・八龍神社の祈年祭、例祭（4月14日・15日）、新嘗祭の各祭典は、同日に交互に時間をずらして斎行している。例祭では、昭和36年までは毎年出社（神幸）をしていたが以降は5年毎の出社。次回の例祭の出社祭典は、令和8年に予定されている。

○上岡お祭伝承館 両神社の屋台は、これまで使用のたびに組立と解体を繰り返し傷みが見られてきたことから、平成29年12月、上岡区民の協力と大子町の支援を得て、組立てたまま保管することができる「上岡お祭伝承館」が竣工した。尚、同伝承館がある旧上岡小学校は、明治44年建設の木造造りで茨城県内の小学校校舎では2番目に古く、現地保存の校舎では県内最古。平成26年には校舎建物3棟が国の登録有形文化財に登録された。また同小学校は、以前放映のNHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」や「おひさま」の撮影地でもあり、現在でも多くの撮影などに使われている。

○松尾 芭蕉(まつお ばしょう) 寛永21年(西暦1644年)～元禄7年(1694) 江戸時代前期の俳諧師。三重県上野市(現在の伊賀市)出身。俳諧(連句)の芸術的完成者であり、蕉風と呼ばれる芸術性の極めて高い句風を確立し、後世では俳聖として世界的にも知られる、日本史上最高の俳諧師の一人である。芭蕉が弟子の河合曾良を伴い、元禄2年(1689)3月に江戸を立ち、東北、北陸を巡り岐阜の大垣まで旅した紀行文『おくのほそ道』が特に有名である。

句碑の文字
八九間 空で雨降る 柳かな
「降ったり止んだりの空模様であるが、大きなしだれ柳の木の高さ、九間ぐらゐのところで春雨が降っているように感じられる」という意味です。